

- 保護者の皆様から104のご回答をいただきました。約7割の方々から趣旨へのご賛同をいただき、さらに学校から示した内容や実施方法についてそれぞれのお立場から具体的なご意見をいただきました。呼びかけた取組について真剣に考え、ご回答下さった方々に感謝申し上げます。
- 今回、実施を見送ることにした主な懸念事項は次の通りです。
 - ・ 日常的に校内に保護者の目が入ることによって、児童のストレスが増加するのではないか。
 - ・ 児童のプライバシー侵害につながるのではないか。
 - ・ 児童の監視体制をつくるためではないか。
 - ・ サポーター制度が義務化され、新たな負担となるのではないか。
 - ・ サポーターで入る保護者の適性は保証できるのか。
 - ・ 任命責任や、サポーター起因の事故発生時の責任は。
- 学校の考えについて

ご意見の中には、事前に予想していたこともありましたが、予想外の心配事がありました。この取組を呼びかけ、ご意見をいただいたことで、改めて保護者の皆様が学校にお持ちになられているイメージやそれぞれにお持ちになっている心配事がわかりました。「子ども達を安心できる体制で伸び伸びと育てたい」という思いは同じだと思いますが、「その体制を職員と保護者の方々で作る」という取組には多くの段階的な合意形成が必要だと改めてわかりました。

今回の呼びかけの基盤にある考えは次の通りです。

- ・ 保護者の方々に日常的に学校へ入っていただくことは、子ども達を学校と保護者が両輪となって育てるために有効。
- ・ 子どものことは、学校任せでも、家庭任せでもいけない。
- ・ 保護者が学校で過ごす子ども達の様子を見ることは特別な参観ではなく、ごく普通のこと。

今後も学校で行いたい取組があれば、発信させていただき、一番の関係者である保護者の皆様の評価やご意見をいただきながら進めて行きます。それが学校と保護者の皆様との間での段階的な合意形成につながるものと考えます。